

令和3年度

ホームヘルプセンター武蔵野ヘルパー便り



4月

花冷えの続くこの頃、ヘルパーの皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。季節外れの降雪や気温低下で体調を崩されないようご自愛くださいませ。

今年度もヘルパーの皆様には大変お世話になりました。コロナウィルスとの共存はしばらく続くと思いますが、今まで経験してきたことを生かし新しいことも始めていきたいと思しますので皆様どうぞよろしくお願いたします。

事務所からのお知らせ

■ ヘルパー賃金の訂正について

先月配布いたしました「登録ヘルパー賃金内規」の金額に一部誤りがありましたのでお知らせいたします。訂正した賃金表を同封いたしましたので、ご確認ください。

■ 令和4年度版『稼働可能な時間帯』の提出をお願いいたします。

『稼働可能な時間帯』は年度の初めに提出していただいております。具体的なケアの希望等をご記入いただき、ヘルパー活動をするうえでの目標をたてて頑張ってくださいと思います。

在宅で終末期を迎える利用者も増加傾向にあり、今後は身体介護ケアが必要とされるケースが増えていきます。「身体介護ケアに不安がある」「やったことがあまりないから心配」「腰を痛めそう・・・」と考えていらっしゃる方もご安心ください！安心してケアに入れるよう職員がフォローしていきますので、皆様ご協力のほどよろしくお願いいたします。

■ 土・日祝ケアへのご協力をお願いいたします。

土・日祝にご尽力いただきましたヘルパーの年齢的なものによる退職が相次ぎ、深刻なヘルパー不足が問題となっております。

月1回程度の臨時でも構いませんので、お受けいただけるようご協力をお願いいたします。

少しでも入っていただける方は、毎月提出していただいております『稼働可能な時間帯』(半分の用紙)に記入をお願いいたします。土・日祝は時給もアップしておりますので是非ともお願いいたします！

■ 集合研修の再開について

コロナウィルス感染拡大防止の為に中止しておりました集合研修ですが、令和4年度より少しずつ再開していきます。「ヘルパー同士のコミュニケーションの機会を設けて欲しい」との声も多く聞かれており、開催方法等検討しております。動画研修/会議はお好きな時間に視聴するメリットがありますが、ヘルパー同士の情報共有ができないことが最大のデメリットです。良い面を残しつつ新しい研修/会議のスタイルで開催できるようにし

4月のヘルパー会議

「セーフティネットが必要な事例について」

* 4/20(水)～配信

* 様々な環境や事情を抱えながら、在宅生活を継続していくため必要な訪問介護サービスについて事例を通して課題や良案を考えていきましょう。

4月の全体研修

4月の全体研修はお休みとなります。

5/20(金)～配信予定

・「理事長講話」公益財団法人武蔵野市福祉公社理事長
・「コンプライアンス」公益財団法人武蔵野市福祉公社 常務理事
新しい年度の初めにお話いただきます。ヘルパーの皆様方に視聴していただく研修です。

3月のヒヤリハット・事故報告

・「職員証」の落とし物・・・拾っていただいた方のご厚意で事務所に届けていただきました。「職員証」を持参する際はケースやポーチに入れる等、落とさないようご注意ください！



ワンポイント講座

「ヘルパーが持つべき自立支援の視点」

介護が必要になっても、なるべくこれまでと変わらない日常生活が続けられるようにするため、住環境の整備は欠かせません。家の中のちょっとした段差や階段は、年齢、病気や ADL の低下により「障害」となることがあります。

毎日の生活に意欲を感じ、モチベーションがアップするよう住宅環境を整えることは、利用者の自立支援にもつながります。「〇〇さん、ここに手すりがあれば立ち上がることができるのではないかしら？」「ドアの隙間に手を入れて立ち上がろうとするのは危険！」などと感じたことはありませんか？

訪問介護ヘルパーは利用者の生活の代弁者とも言える役割があります。ヘルパーが感じた『気づき』の視点を報告することで事故を防げる可能性もあり、福祉用具専門相談員等が自立に向けた提案をすることができます。

今回はヘルパーが利用者宅のどのような変化に着目すればよいか「ヘルパーが気づける住環境改善のポイント」をご紹介します。

玄関での動作・・・靴の脱ぎ履きをどのように行っているのかを確認。上がり框は無理なく乗り越えられているか？その際に下駄箱などにつかまっていないか？（場合によってはしっかりつかめるように壁や下駄箱に手すりを付ける提案をすることができます）

室内の移動・・・導線の確認。何もつかむものが無い状態で部屋の真ん中を移動していないか？

立ち座りの動作、ドアの開け閉め動作、電気をつけたり消したりする時の動作でどこかをつかんでいるか？足の上がり方にも注目します。足をしっかりと上げて歩けるのか、すり足なのか、それによってスロープの使用や、手すりの必要度も変わってきます。

トイレでの動作・・・トイレでの出入りでは、扉を開けるときの、電気を付けたり消したりする時にどこに手を置いているかをチェックします。開き戸の場合は、いったん身体を引くという動作が必要になってくるので、立位が不安定になりがちです。扉を開ける時に、そのまま身体がもっていられないよう、扉のふちをつかんでいるかなどの動作を見逃さないこともポイントです。

便器の立ち座りと、衣類の着脱をどのような体勢で行っているかを確認することも重要です。トイレの水栓レバーがタンクの横についているので、後ろに振り返る時、身体の回転動作にふらつきがないか、ふらついた時にタオル掛けなどをつかんでいないか等も確認ポイントです。タオル掛けがグラついているような場合は、つかんでいる可能性が高く危険です。

浴室での動作・・・浴室への出入り方法、浴槽のまたぎ方と浴槽から出るときの動作、そして滑りやすさに注目します。足の踏ん張りが弱いと滑って転倒しやすくなります。浴槽のふちにつかまって立つ場合もありますが、濡れていて大変滑りやすくなっているのが危険です。手でつかむ場所が滑りやすくなっているかどうか確認ポイントです。

まとめ

無意識に行っているちょっとした動作にも多くのヒントがあります。利用者は自分で伝えるのが難しいこともありますので、常に少しの変化も見逃さず、気づいたことはサービス提供者に報告・相談するようにしましょう！